

みんなが利用する 施設(図書館)で

図書館について。窓口に身ぶり手ぶりで話している人がいます。そのうち、窓口の人が何かを書き始めました。



知りたがりやのせたち。後ろから声をかけましたが、返事がありません。あれ？



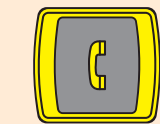
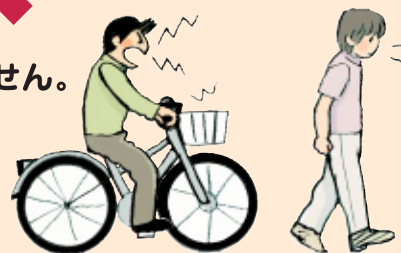
筆談ボードで、お話を聞きました。これに書いたり消したりして、話をすることができます。



気がついてふり返った。すすむさん。こんなカードを見せてくださいました。耳の聞こえない方だったんですね。

聴覚に障害のある人は、こんなことに困っています

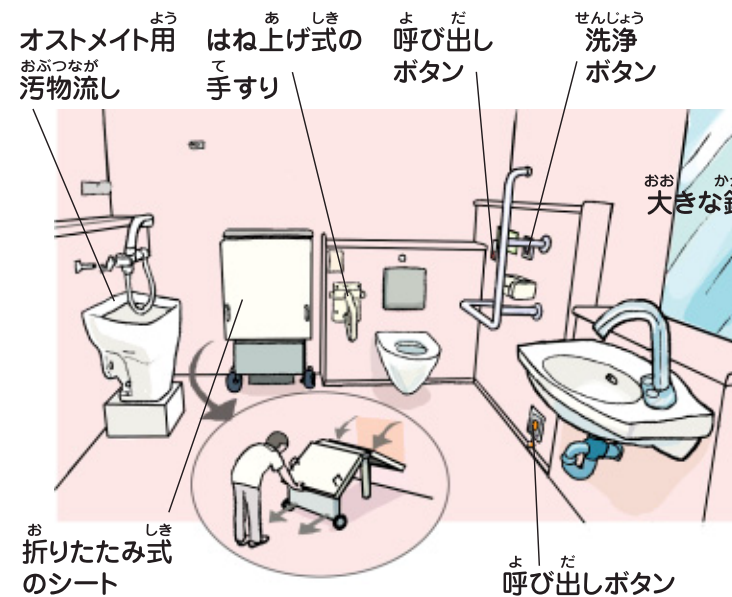
- 窓口での呼び出しの声、緊急の情報など、音声だけではわかりません。
- 後ろから声をかけられてもわかりません。自転車で気づかず、追い越さずに文句を言っているのが口の形でわかり、とても悲しくなったこともあります。



非常用ボタンだけでは対応できません。

- 聴覚に障害のある人の中には、文章を読むことの苦手な人がいます。区役所の窓口などには手話を使える人がいると助かります。
- インターホンで対応するエレベーターの非常用ボタンでは、いざというときに話できません。ひとりではエレベーターに乗らないようにしている人もいます。

みんなが利用する施設で 見かける工夫やとりくみ



オストメイト用おふつなが汚物流し、はね上げ式のてすり、よ呼び出しボタン、せんじょう洗浄ボタン、かがみ大きな鏡、お折たたみ式のシート、よ呼び出しボタン

車いすを使う人、オストメイト(人工肛門、人工膀胱造設者)、小さい子どもづれの人など、だれもが使いやすいように工夫されたトイレがふえています。



イベントでは、手話通訳や要約筆記などを用意し、聴覚に障害のある人も参加できるようにしています。



弱視の人にも見やすいようにサインが工夫されています。外国語の対応もしています。



窓口で順番を知らせるとき、音声だけでなく、番号表示もしています。



別れるときに、すすむさんが言いました。「まちは、耳の聞こえない人や、目の見えない人、車いすを使っている人、お年寄り、赤ちゃんをつれた人などがいるけれど、みんなが使えることをめざした“ユニバーサルデザイン”という考え方があっていいよ。興味があったら調べてみてね」



簡単な手話を教えていただき、別れました。どうもありがとうございました。